

計画第3期 小中一貫教育とCSの充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.43 R4.10.31 幕別町教育委員会 学校教育推進員

感染の減少傾向かと思う矢先にまた増加など、なかなか先が見えない状況が続いています。お祭りの再開や外国人旅行者の解禁などウイズコロナで経済活動を進める流れが強まっているので仕方がないところです。各学校では、文化祭や学習発表会、修学旅行など大きな行事を成功させていますが、学級閉鎖もぼつりぼつりと出ています。できる限りの感染対策を継続しながら、これまで通り着実に教育活動を進めていきましょう。

今月は、ちゅうるい学園の運営協議会、札内東学園の地学協働本部の取組、糠内学園とまくべつ学園の小中一貫教育の様子についてお知らせします。

自由に考えを出し合う熟議！ちゅうるい学園運営協議会 9/26

9月26日(月)に学校運営協議会が忠類中学校を会場に開かれました。加藤会長、白井学園長の挨拶に続き、三好事務局長、三寺事務局次長から、学園評価アンケート結果とそれを受けての後期の活動や、全国学力・学習状況調査結果の概要、各校の様子等が報告されました。

報告を受けて、加藤会長の進行で、学園評価アンケート結果に関わる意見・感想を出し合いました。スマホの使用時間などメディア接触時間に関することが多く出されました。時代を踏まえて丁寧に進めていこうと加藤会長が話し合いを締めくくりました。

次に、白井学園長から、めざす子ども像を統括するような目標作りをしたい、15年間の育ちや学びについて保護者や地域の目線での意見がほしいとの提起があり、加藤会長をファシリテーターとして、学園目標をテーマに熟議を行いました。付箋は使わず各自が自分の考えを自由に語る形で進められました。「挨拶がとてもいい忠類の子どもたち」「チャレンジ精神をもっと」「たくましさしてほしい」「『自分が』だけでなく『みんなで』も大事」など様々な考えが出されました。加藤会長は「忠類の子どもたちの良さを生かしながら、社会で通用する力をつけさせたい。今日の話し合いを参考に方向性を出していこう。」とまとめ、熟議を終了しました。めざす子ども像がすべてを言い表しているとの意見が多かったことから、これを基本に「保護者・地域の思いを端的に表現できる目標」を事務局から改めて提案することが確認されました。



この後、正副学園長から、小中学校の次年度に向けての人事について、運営協議会委員の任期について、地域学校協働本部やコーディネータの役割について、それぞれ説明・報告がなされました。最後に、副学園長の浪内忠類小学校長が「忠類の良さをしっかりと次につないでいくことが学校と地域の使命。頑張っていきたい。」との挨拶で会議は終了しました。

運営協議会が地域と学校の相互理解を進める貴重な

場となっています。

札内東学園地域学校協働本部学校訪問 10/13 白人小学校

10月13日(木)、札内東学園地域学校協働本部による学校訪問が行われました。前回の会合で確認された「学校のことをもっとよく知ろう」を素早く行動に移した活動です。この日は、昼の12時半に、協働本部のメンバー8名と社会福祉協議会から1名の計9名が学



裏に続きます

校に集まり、懇談・見学を行いました。学校からは校長、教頭、教務主任、6年担任が参加し、初めに教務主任、6年担任から「図書ボランティア」「ミシンの授業」「書写（習字）指導」でお願いしたい活動が説明されました。その後、図書室と昼休みの児童会図書委員会の貸し出し活動の様子、ミシン等家庭科室の様子を見学し、最後にフリートークで意見交流を行いました。



全体で確認されたことは、まずは活動できることから取り組むことにし10月17日（月）から岡部コーディネータが中心になって『図書ボランティア』をスタートさせること（当面週1回程度）、老人会（後藤会長）も組織として『図書ボランティア』のバックアップを行うこと、この活動がある程度軌道にのった頃下山プロデューサー（以下下山P）から正式にオファーすることにするが高齢化で難しい面があることも念頭に置くこと、他の活動に関しては下山Pを中心に人材探しとマッチングを進めていくこと、白人小学校の活動を進めながら北小にも今後広げていくこと、でした。

今後、できる取組を進めながら改善を図って地学協働活動を地道に進めていくことにしています。確実に活動を具体化している札内東学園です。

後期活動の見通し確認 糠内学園定例経営会議 10/17

10月17日（月）、定例の経営会議が開かれ11・12月の活動について確認しました。

つながる力部会から、継続中の学級通信交流、授業参観交流のこと、12/7糠内小総合発表会の参観等について、変える力部会からは継続中のICT活用授業実践のこと、実施要項を11月経営会議提案に向け検討中である12/12ICT実践交流会のことがそれぞれ報告されました。

続いて11月実施の乗入授業について協議し、11/11の午前のみ実施の試行日、全日実施の11/15, 11/28, 11/29の時間割やスクールバス等の移手段の確認を行いました。11/7, 8あたりに小中教員の事前打合せを行うことも確認されました。このほか、作成中の小中一貫教育課程の進捗状況や10/24の運営協議会の内容について確認し、各校の状況について交流しました。

毎月定例で会議をもち計画的かつ確実に事業を進める糠内学園です。

ふるさと・キャリア教育全体計画に基づく「合同総合」実施 10/19 まくべつ学園



すでに整備した、まくべつ学園ふるさと・キャリア教育全体計画に基づき、学園・地域の特色を生かした「合同総合」を、学園の地域連携委員会を主体に実施しています。

現在、小、中それぞれで行っているふるさと・キャリア教育から、共通する目標や内容である学習や小中学生が一緒に活動することで効果が高まるとされる学習について、一緒に

活動できる時間を見出すことをねらいとし実施し次年度以降の小中一貫教育課程の整備・改善に生かそうとする取組です。

10月19日（水）には、まくべつ学園の小学6年生と中学3年生が幕別中学校の体育館に集まり、「地域の未来づくり『幕別の未来について考えよう』」をテーマに、「自分たちが大人になったときの幕別町を想像しながら未来に残したい魅力や抱えることになるだろう課題などについて考えを出し合い、幕別町の昔、今、未来について話し合う」グループ活動を行いました。6年生はこれまでの社会科や総合的な学習の時間で学んだことを生かし、中学3年生は修学旅行で訪れた函館との比較をしながら協働して学習を進めました。この取組の続きは、今後、小、中それぞれの教科や総合的な学習の時間の中で取り組んでいく計画です。

